令和3年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

No.	申請高校・大学名	グループ名	教育・研究活動名	指導 責任者名 （教員名）	参加 生徒・学生数	協働する 市民活動団体名	主な活動内容及び実績	活動期間及び 報告会	活動内容（分野別）				
									高齢者	子ども	障害者	防災	その他
1	関西大学	近藤誠司研究室	災害時要配慮者に関する防災支援・交流プロジェクト	近藤　誠司	17 人	尼崎市難病患者団体連絡協議会	難病患者・障害児者・高齢者などの要配慮者は防災対策の促進に苦慮しているため、学生が要配慮者に対する支援手法に関する課題の検討と情報発信を行った。具体的な取組として、FMあまがさきの中で「ぼうさいアイアイ」という防災福祉番組を2018年10月14日から183回もの放送を継続した。今後は、WEBサイト上でより多くの人が視聴できるよう「ぼうさいアイアイ　聞き逃しサービス」を展開する。 また、尼崎市難病患者団体連絡協議会との難病患者・障害児者の防災対策に関する交流シンポジウムは、コロナ禍の影響により次年度に延期することとなったが、来場者を集めず「コロナ災害を乗り越える～防災福祉ミーティング～」をテーマとし、コロナ禍での当事者や支援者の取組と想いのスピーチをビデオ録画してyoutube配信を行った。	活動期間：R3.6～R4.2 報告会：R4.2.20（延期） 動画配信				○	
2	兵庫県立 尼崎小田高等学校	看護医療「あまおだかんご」	地域コミュニティづくり-「防災・減災　災害時要配慮者の支援を中心に共助の取り組みを」「在宅療養・看取りの地域啓発活動、健康・病気の予防活動」「子どもの居場所づくり-子どもに笑顔を」の3つの取り組み	福田　秀志	31 人	小田地区民生児童委員協議会	災害時要配慮者の支援について、「尼崎市要支援者見守り・支え合い事業」を実施し、生徒が要支援者への自宅を民生児童委員と一緒に訪問し、日ごろからの顔の見える関係づくりに取り組んだ。また、「あまおだ減災フェス」を開催し、地域住民と防災・減災について考える時間を共有し、地域の防災力向上を目指した。 在宅療養・看取りについては、「高校生企画！みんなで楽しく健康に」にイベントを実施し、コロナ禍で外出機会が減少した高齢者に対して、フレイル予防につながるような体操等、高齢者がその人らしく過ごすことができるよう地域コミュニティへとつながる機会を提供した。 子どもの居場所づくりでは、コロナ禍で退屈な日々を過ごしている子どもたちが楽しめるよう「遊ぼう！学ぼう！小田夏祭り」等を開催した。また、子ども食堂に出向き、子ども食堂の役割について学ぶことで子どもをめぐる現状を知り、子ども食堂を支援する方法として募金活動を行い提供した。	活動期間:R3.4～R4.3 報告会：R4.1.23、.2.5	○	○	○	○	
3		国際探求「members of a society」	安心して暮らせる環境づくり (1)災害時の多言語対応（非常時における社会的弱者への支援） (2)尼崎市在住の外国人支援および交流	二森　正人	11 人	尼崎市国際交流協会	地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標として「災害時の多言語対応-外国人居住者への支援を中心に-」生徒が防災の基礎知識を学び、災害時や非常時に外国人居住者が直面する問題をインタビューとアンケートを用いて調査し、その解決策を基に、ハザードマップに多言語対応のQRコードを記載することを災害対策課に提案し、外国人の方に役立ててもらう準備を進めた。また、「尼崎市在住の外国人支援および交流-誰もが安心して過ごせる環境づくり-」として、尼崎市在住の外国人の方々（主にベトナム人）とゲーム等で楽しく交流する機会を設け交流した。交流では、新型コロナウィルス感染症拡大のため母国に帰れずさみしい思いをしていることを知り、普段から連絡を取り合えるSNSを通じた関係づくりを築いた。	活動期間:R3.4～R4.3 報告会：R4.2.5				○	○
4		普通科探求「あまおだ地域応援隊」	地域コミュニティづくり-「高齢者の生きがい作り」「子育て世代と共に作る未来作り」「子どもの居場所づくり」「災害時の高校生にできること」の4つの取り組み	難波　滋	30 人	杭瀬小学校地域学校協働本部 小田地区民生児童委員協議会	生徒が地域の高齢者等を対象に、民生児童委員との協働活動による「尼崎市要支援者見守り・支え合い事業」の見守り・ささえあい協力員として見守り訪問を行った。また、地域の高齢者との顔の見える関係づくりとして、訪問型の見守りの他、拠点型のふれあいサロンを実施し地域の高齢者に参加してもらい交流を深めた。 また、コロナ禍でも災害は発生するという想定のもと、夏休み期間中を利用して、地域学校協働本部が主催する防災スクールに参加し、自助や共助の大切さを地域住民とともに学び高校生として災害時に支援できる体制づくりを検討した。 子ども向けとしては、地域の保育所の園児を対象に尼崎小田高校でふれあいイベントを実施した他、小田南生涯学習プラザでは、「あまおだ夏祭り」として、輪投げや的あてなど、子ども向けのイベントを実施した。	活動期間:R3.7～R4.2 報告会：R4.2.5	○	○		○	○
5	兵庫県立 阪神特別支援学校分教室	WORK（喫茶サービス）	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	中川　さつき	29 人	・武庫第10連協 ・時友団地連合会	障害のある生徒が、喫茶サービス活動を通じて地域との交流を深め、接客技能と社会性の向上を図り、自己効用感、就労意欲等を高めることで地域福祉活動を担う人材を育成すること等を目的に、武庫第10社会福祉連絡協議会と協働して、時友団地の集会所で入居者や地域住民を対象とした「ふれあい喫茶」を年間14回実施し、地域コミュニティの活性化に貢献した。また、年に数回、清流園やまごころ茶屋において出張喫茶を予定していたがコロナ禍により中止とした。そのことの代替えとしてふれあい喫茶を利用してもらい交流を図った。	活動期間：R3.6～R4.3 報告会：R4.3.7～3.25 （パネル展示）	○		○		○
6	園田学園女子大学	黒木ゼミ	地域で支え合う尼崎市の子育て支援について学ぶ	黒木　昌	6 人	特定非営利活動法人やんちゃんこ	将来保育職に就くことを目指す学生が大学から地域に目を向け、地域の実態に応じた子育て支援、親子に寄り添う支援に関する理解を「やんちゃんこ」での親子の関わりの中で学んだ。その上で学生の視点で課題を出し合い実践する内容を検討し、つどいの広場では、地域の親子を対象に普段の家庭では体験できないような創作活動を行い、子どもとの関わりだけでなく保護者との関わりを大切に地域の中で子育て支援を行う大切さを学んだ。また、「発達特性の理解と関わりについて」をテーマとした子育て領域講演会では、当日の運営等に関わり、年齢・発達段階・障害の特性と言った子ども一人ひとりに合わせた関わりや子ども自身が持っている力、まわりで支える援助があることを理解し、情報発信することが地域連携の一助となること学んだ。	活動期間：R3.5～R4.3 報告会：R4.3.7～3.17 （パネル展示）		○			
7		江嵜ゼミ	地域と大学の宝が。活動を通して、共に学び育つ	江嵜　和子	8 人	NPO法人スマイルひろば	将来養護教諭を志望する学生が、NPO法人スマイルひろばと連携し、地域の不登校、いじめ、メンタルヘルス、コロナ禍によるストレス等の教育課題に取り組み、地域の福祉課題の解決につなげた。また、学生自身の資質能力を高め、地域課題に向き合うことで地域課題解決の貢献に資することを目的とし、小中高生とのかかわりから本人の課題を早期に発見できるよう努めた。活動の中では、子どもたちに合わせて学習支援・遊び支援を行い、「子どもの様子で気になったこと」や、「こんな時はどうする」等、都度スマイルひろばからアドバイスを得て、現代の子どもたちが抱える問題やその背景について学んだ。	活動期間：R3.5～R4.3 報告会：R4.3.7～3.17 （パネル展示）		○			
8	兵庫県立 尼崎西高等学校	地域貢献グループ	地域貢献活動	柏木　良介	30 人	大庄元気むら	生徒が、大庄元気むら運営委員会とともに、地域の抱える課題と解決策について話し合い、地域住民にとっての居場所となるようイベントの企画等を行い、カフェ運営、ハロウィン等のイベント、地域交流を目的とした文化祭等を実施した。また、SDGs達成に向けた取組として武庫川河川敷清掃、ゴミ拾いウォークやバザー等のリサイクル運動を定期的に取り組んだ。	活動期間：R3.6～R4.3 報告会：R4.3	○				○
9	兵庫県立 尼崎北高等学校	芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ（尼北創立100周年編）	吉田　英一	103 人	・うさぎ屋 ・あまがさき環境オープンカレッジ	生徒が様々な境遇の幼児、児童、高齢者の方々と音楽や工作を通じてその時々でできる方法を考えて関わり、地域住民との地域社会における共生のあり方を模索し実践した。具体的には、楽器体験など小規模な軽音教室や、幼児や高齢者向けの演奏動画配信、工作を動画で説明するシステムの確立を目標とし、YouTubeにて配信を行い、離れていてもつながる方法を見出した。 こども食堂との連携は、活動休止により実現できなかったが再開次第、軽音教室や工作教室を企画し、楽器等を通じた交流会をシリーズ化し実施していく。また、あまがさき環境オープンカレッジとは、エコあまフェスタのテーマソングを担当し、環境啓発の一助となる活動を行った。	活動期間：R3.6～R4.3 報告会：R4.3（動画配信）	○	○			○
10		72期生環境類型クラス	SDGs子どもかるた	大道　正 吉田　英一	40 人	あまがさき環境オープンカレッジ	生徒が地域社会との交流を深める活動として「SDGsこどもかるた」を製作し、学校や子ども食堂・イベントで配布し交流しながら、小学生と高校生双方がSDGsに対する関心と理解を深めることを目的に活動を行った。 大型試作品は完成したが、市民に公開しその意見をかるたに反映しようと計画していたことがコロナ禍により相次ぐイベントの中止により計画を中断することとなった。 かるたの句については、あまがさき環境オープンカレッジにアドバイスをもらい生徒間で新しい句を検討したが、やはり市民からの意見収集ができなかったため製品版製作は次年度に延期することとした。	活動期間：R3.4～R4.3 報告会：R4.3（動画配信）		○			○
11	武庫川女子大学	複合領域合同ゼミグループ	尼崎市の子ども食堂を交流拠点とした食育活動と漢字学習支援	吉井　美奈子	23 人	モコモコ倶楽部	尼崎市おける子ども食堂の役割は大きく、「かかわりの場」としての役割も重要となっている。そんな中、地縁のある学生との交流を通じて、食育活動や学習支援（主に漢字学習）を行い、子ども達の食生活や漢字に対する意識を高め、学生にとっても体験的に学ぶだけではなく、社会参画意識や地域交流の意義について再認識を行った。具体の活動としては、モコモコ倶楽部と一緒に協同でクリスマス会を実施した際、子ども達と漢字の缶バッチ作りや、漢字と食育の融合として作成した教材を使用したゲームを実施した。その教材を製作するために学生は関連施設などで研修を受講し学んだ。	活動期間：R3.4～R4.2 報告会：R4.2.3、2.16、2.19		○			
12	関西学院大学三田キャンパス	国内ボランティアサークルつなぐ	子ども食堂晴れるや	村瀬　義史	20 人	子ども食堂晴れるや	子ども食堂とのかかわりを通じて、学生が現在子どもたちが置かれている状況を把握し、子どもたちを取り巻く問題について考え学ぶ機会とした。活動では、学習支援のサポートや調理補助を行い、地域の子どもたちにとってあたたかい居場所を提供した。また、コロナ禍でも地域に対してできることを考え、食堂運営に主体的にかかわり、地域で中止になったお祭りを子ども食堂の中で縁日として実施し、地域住民、子ども食堂、学生が一体となりつながりを深めた。	活動期間：R3.5～R4.3 報告会：R4.3.24～（パネル展示）		○			
13	関西国際大学	児童文化研究会	絵本を通して防災理解を広めるプロジェクト	椋田　善之	24 人	・紙芝居サークルどんぐりの会 ・読み聞かせグループハートフリー	将来保育士・幼稚園教諭、小学校教諭を目指す学生が、子どもたちの命を守る上で必要な防災の知識を読み聞かせグループと連携し、創作絵本や紙芝居によりイベントを通して地域の親子に伝えるとともに、子どもを取り巻く今日的課題についても考え、子どもへの関わり方や、心身の発達段階における幼児教育・小学校教育の役割を学んだ。	活動期間：R3.10～R4.3 報告会：R42.26		○		○	
14		福祉学専攻インターシップ	持続可能なコミュニティの形成めざした多世代型居場所づくりプロジェクト	尾崎　慶太	18 人	・企業組合はんしんワーカーズコープ ・三和本通商店街振興組合	学生がソーシャルワークの基礎である住民主体の観点や人権感覚を養うことを目的として、はんしんワーカーズコープが運営する地域のコミュニティスペース地域共創Lab.を拠点に、三和商店街や小田地区での活動を地元の高校生とも協力関係を築きながら多世代型居場所づくりを実践した。また、活動の成果をポスターにまとめ、一定の期間中央北生涯学習プラザに展示し、広く市民に向けて報告を行った。	活動期間：R3.8～R4.3 報告会：R4.3.16～3.22 （パネル展示）	○	○	○		○
15		地域防災プロジェクトチーム	地域防災×地域交流プロジェクト	松尾　和宣 岩本　裕子 田中　綾子	28 人	・潮江社会福祉連絡協議会 ・社会福祉法人阪神共同福祉会	将来、福祉や教育職を目指す防災士の資格を取得した学生が、地域の自主防災会の防災訓練に参加し、地域の防災体制について学んだ。防災訓練の参加を通じて、自主防災の現状を知り、普及や啓発活動について検討を行い、地域の高齢者に対して「防災」をテーマとした地域交流イベントを企画したが、コロナ禍により延期することとなった。 地元の高校が主催する「あまおだ減災フェス」においては、参加者に対してワークショップ形式で、カードゲームで疑似体験する「避難所運営ゲーム」を行い、多くの地域住民への防災・減災の啓発に貢献した。	活動期間：R3.11～R4.3 報告会：R4.3.21				○	
16		キッズレポリューション	子どもが主役の地域を創る　キッズレポリューション	大平　誠也	33 人	小田のマナビヤ実行委員会	子育て世代の保護者に対し、親の孤立感や子育てに係る負担感の軽減を図り、安心して子育てができる環境を提供するために、各関係団体等（子育て支援団体、地域の高齢者、行政機関）と連携し、地域全体で子育て世代を応援することを目指しイベントを企画したが、コロナ禍により実施できなかったため地元の高校生の協力を得て製作物を地域の親子に配付した。また、他のイベントにおいても、ボッチャ体験を行う予定であったが、コロナ禍により実施を断念した。 地域住民との交流として地域の会合に参加し、地域住民の子育て支援に関する取り組みを知り、小田地域の活性化について一緒に検討を行った。	活動期間：R3.11～R4.3 報告会：R4.2.26		○			○
	9校	16グループ			451 人	22団体			6	11	3	6	8